透析患者に関する薬剤情報
医療法人に真会 白鷺病院 薬剤科

## ▼プリミドン錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】プリミドン(U) Primidone 【分類】抗てんかん薬

【単位】▼250mg/錠

【常用量】■治療初期 3 日間は 1 日 250mg を就寝前. 以後症状に応じて 3 日間ごとに 250mg ずつ増量し、1 日量 1,500mg まで漸増 [最大 2000mg/日] ■小児:治療初期 3 日間は 1 日 125mg を就寝前. 以後 3~4 日間ごとに 125mg ずつ増量して、年齢に応じて 500~1000mg/日まで漸増

【用法】初期は寝る前、維持期は分2~3

【透析患者への投与方法】24hr 毎に投与 [HD 日は HD 後] (12) ただし、一部フェノバルビタールに変換され、他の活性代謝物の半減期が長いなど複雑な PK をとるのでできれば投与しない (12)

【その他の報告】250mg を 24hr 毎に投与して HD 後に補充投与を行う (17)

【PD】 データなし (12)

【CRRT】 データなし (12)

【保存期 CKD 患者への投与方法】GFR>50mL/min 以上: 1回量を 12hr ごと、GFR 10~50mL/ml: 1回量を 12~24hr ごと、GFR<10mL/min: 1回量を 24hr ごと (12,17) PK が複雑なので腎不全患者には避けるのが望ましい (12)

【特徴】フェノバルビタールの還元型で、一部がフェノバルビタールとフェニルエチルマロンアミドに代謝され、両者の薬理作用の総和により抗てんかん作用を発揮すると考えられている。本態性振せんの治療に用いられることがある.

【主な副作用・毒性】SJS・TEN, 再生不良性貧血, 依存性, 血球減少, 蛋白尿, 肝障害, 眠気, 情動変化, 心悸亢進, 複視, 骨軟化症, 消化器症状など 【吸収】約60~80%が吸収(1)

【F】代謝物に変化するので同定困難 (1) 90~100%と推測 (U)

[tmax] 3~4hr (U)

【代謝】経口投与量の15%がフェノバルビタールに変化する(1)フェニルエチルマロンアミドの生成率は低い(1)

【排泄】尿中回収率プリミドン 20%, フェノバルビタール 4%, フェニルエチルマロンアミド 48% [ウサギ, 81hr まで] (1) 尿中未変化体排泄率 40% (12) 64% (U) 代謝物としては低い (U)

【CL】 0.78±0.62 mL/min/kg (1) CL は 4~12 週にかけて増大する (17) 24.6ml/hr/kg (Sato J, et al: J Pharmacobiodyn 1992 PMID: 1287181)

【t1/2】5~15hr (12) 3~23hr (U) 5~15hr, ESRD でも変化しない (12)

【蛋白結合率】約20% (1) 0~20% (U) 0% (12)

[Vd] 0.8L/kg (1)  $0.64\sim0.86L/kg$  (U)  $0.4\sim1L/kg$  (12)

[MW] 218.25

【透析性】血漿クリアランスは97.7mL/min, 透析時半減期5.1hr [条件不明] (1) 除去率31.7%, HD 時半減期5.1hr (Lee CS, et al: J Clin Pharmacol 1982 PMID: 7107978)

【O/W 係数】資料なし (1) 【TDM のポイント】治療血中濃度は一般にプリミドンは  $3\sim12\,\mu\,g/mL$ , フェノバルビタール  $10\sim30\,\mu\,g/mL$  (1) プリミドンは  $5\sim15\,\mu\,g/mL$ , フェノバルビタールは  $15\sim25\,\mu\,g/mL$ ,  $10\sim40\,\mu\,g/mL$  とする報告もある (1) プリミドンの中毒域  $15\,\mu\,g/mL$  以上 (1)  $5\sim12\,\mu\,g/mL$  (SRL 検査案内) プリミドンとして  $5\sim12\,\mu\,g/mL$  にてフェノバルビタール  $20\sim40\,\mu\,g/mL$  が得られる (U) プリミドン: フェノバルビタール=0.8:1 との報告があるが、個人差が大きい (U) 【相互作用】フェニトイン併用で全身 CL が 1.8 倍(Sato J, et al: J Pharmacobiodyn 1992 PMID: 1287181)

【更新日】20240928

※正確は情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適別性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、 直接または間路がに生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。 ※本サイトに掲載の記事・写真などの無期帯載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。